

江戸無血開城を決意した 勝 海舟

*1823 勝海舟は江戸に生まれる、名は麟太郎

*黒船が来襲した時「海防意見書」をまとめ、これが上司の目に留まったのがきっかけとなり長崎海軍伝習所の一期生となる。長崎海軍伝習所は現在の県庁にあった。航海術・数学・物理をオランダ語で学び、講師はオランダ軍人のカッテインクディーケ。全国から派遣された人材が集まっていた。

*4年間の長崎生活で、全国に多くの友を得た。

*当時の長崎奉行所は、身分より能力が重んじられ多くの町人が務めていた。

*海舟に出会った坂本竜馬は弟子入りを志願、後に亀山社中を設立した。

*一人の女性と恋に落ちる、下駄の鼻緒が切れた時に助けてくれた「小谷野クマ」との間に一男一女をもうけた。18歳も年の差があったが、彼女は25歳で死去。

*鎮同寺の柱に海舟の落書きが残されている。当時は徳川幕府であったが、そこにはそんな名称もなかったのに、「日本海軍指揮官、勝 麟太郎」と書かれている。〇〇藩〇〇藩などではなく、一つの国として考えていた証。

*1859 4年間の長崎生活を終えて江戸へ帰る。

*1860 咸臨丸でアメリカへ渡る

*1868 3月幕府の全権を持って江戸無血開城を決意する。---日本と言う一つの国を創ることのために---

*1899 77歳で死去

「ことを成し遂げる者は、愚直でなければならない」